

改革プラン（修正案）

Ⅲ 新北九州市病院事業経営改革プラン

1 計画期間

- ・ プラン策定とともに速やかに経営効率化の取組みを進めるため、計画期間は「平成２８年度から平成３２年度」とする。

2 地域医療構想を踏まえた役割の明確化

(1) 地域医療構想を踏まえた市立病院の役割

① 北九州医療圏の状況

- ・ 福岡県の地域医療構想については、平成２８年度中の策定に向けて関係者の協議が進められており、福岡県内の各医療圏の状況に関する分析データが公開されている。
- ・ 分析データを見ると、北九州医療圏は、在宅医療に関するいくつかの指標が全国平均よりも低いものの、ほぼ全ての疾患に対する医療が圏内で完結しているほか、救急搬送も迅速に行われているなど、医療機能が全般的に大変充実していることが分かる。
- ・ 平成３７年（２０２５年）時点における病床機能別の必要病床数の推計では、北九州医療圏全体の必要な病床数は確保される見込みだが、回復期の病床が不足すると予測されている。

② 市立病院の役割

- ・ 北九州医療圏における診療実績のデータを見ると、医療センターはがん診療において、また、八幡病院は小児救急医療において、それぞれ圏内有数の実績を示している。
- ・ 市立病院は、周産期医療、感染症医療、結核医療、災害拠点基幹病院等の政策医療を担うなど、北九州医療圏において重要な役割を果たしている。
- ・ 今後も、医療センターと八幡病院の２病院を中心に、大規模な災害や感染症に備えるなど、北九州医療圏全体及び各地域で必要とされる医療を引き続き担っていく。

- ・ より効果的で効率的な医療提供体制を構築するため、医療センター、八幡病院の特徴や強みを活かすとともに、市立病院間の機能の連携を深めていく。
- ・ 現在、医療センターで行っている周産期医療、感染症医療、門司病院で行っている結核医療については、国・県の計画や指針、地域の状況や市民ニーズ等を踏まえ、将来的に必要とされる医療提供体制について、引き続き検討を行う。
 こうした医療提供体制の検討結果等を踏まえ、建築後25年を経過している医療センターの老朽化対策等について検討していく。
- ・ 福岡県の地域医療構想を踏まえ、地域医療機関との連携の下、中長期的な観点から、各市立病院の病床機能の最適化に努める。
- ・ 改革プラン期間中における各病院等の役割は以下のとおり。

医療センター

- 地域がん診療連携拠点病院として、がん診療を中心に、感染症、周産期医療を含め、高度で専門的な医療を提供していく。
- がん医療については、患者や家族の支援機能を充実するとともに、地域医療機関等との連携の強化に努める。

八幡病院

- 「救命救急センター」「小児救急センター」として、救急医療、小児医療を中心に、市民の安全・安心を支える医療を提供していく。
- 平成30年度中の新八幡病院開院にあたり、災害拠点基幹病院としての機能を強化する。
- 小児医療については、障害者や家族に対する医療面での支援の充実に向けて、障害児や在宅医療の支援に加え、市立総合療育センターとのさらなる連携強化等について検討していく。

門司病院

- 北九州市で唯一結核医療を提供する病院である。

※結核医療や療養病床を活かした地域医療等、今後の門司病院のあり方について検討中。

看護専門学校

- 市立病院を含めた地域の医療機関にとって貴重な人材育成機関である。

※近年、民間等の看護師養成機関が増加していることから、市立病院を含めた地域医療機関への看護師の需給状況を見ながら、今後の看護専門学校のあり方について検討中。

改革プラン（修正案）新旧対照表

新	旧
<p>②市立病院の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (略) ・ 市立病院は、周産期医療、感染症医療、結核医療、災害拠点基幹病院等の政策医療を担うなど、北九州医療圏において重要な役割を果たしている。 ・ <u>今後も、医療センターと八幡病院の2病院を中心に、大規模な災害や感染症に備えるなど、北九州医療圏全体及び各地域で必要とされる医療を引き続き担っていく。</u> ・ <u>より効果的で効率的な医療提供体制を構築するため、医療センター、八幡病院の特徴や強みを活かすとともに、市立病院間の機能の連携を深めていく。</u> ・ <u>現在、医療センターで行っている周産期医療、感染症医療、門司病院で行っている結核医療については、国・県の計画や指針、地域の状況や市民ニーズ等を踏まえ、将来的に必要とされる医療提供体制について、引き続き検討を行う。</u> <u>こうした医療提供体制の検討結果等を踏まえ、建築後25年を経過している医療センターの老朽化対策等について検討していく。</u> ・ <u>福岡県の地域医療構想を踏まえ、地域医療機関との連携の下、中長期的な観点から、各市立病院の病床機能の最適化に努める。</u> ・ <u>改革プラン期間中における各病院等の役割は以下のとおり。</u> <p>(略)</p>	<p>②市立病院の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (略) ・ 市立病院は、周産期医療、感染症医療、結核医療、災害拠点基幹病院等の不採算医療を担うなど、北九州医療圏において重要な役割を果たしている。 ・ <u>新改革プランの計画期間中は、引き続き、政策医療を中心とした役割を担っていくこととする。各病院等の役割は以下のとおり。</u> <p>(略)</p> <p><u>[将来に向けた取り組み]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>プラン期間中においては、市立病院全体における各病院の役割の明確化を図るとともに、各病院の機能を検証し、周産期医療や結核を含めた感染症医療、障害児(者)医療、回復期病床等について、北九州医療圏全体の状況を踏まえ、より効果的で効率的な医療提供体制が構築できるよう、継続的に検討をしていく。</u> ・ <u>地域医療構想を踏まえた病床機能等の最適化に向けて検討を進める。</u>